

糖尿病治療薬に関する調査

2013年12月2日

<http://research.rakuten.co.jp/>

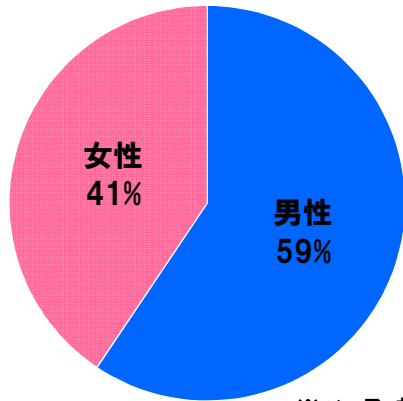
I. 調査概要

調査目的	DPP4が市場に浸透している状況下での糖尿病患者の薬剤使用現況を確認することを目的とする																
調査方法	インターネット調査																
調査対象	※自身の糖尿病タイプを理解している人と糖尿病のくすりによる治療を受けている1・2型の患者を対象とした。 年齢：20歳～69歳 性別：男女 地域：全国																
対象者割付	各性別・糖尿病タイプから以下の割付を行った： <table border="1"><thead><tr><th>(n)</th><th>1型</th><th>2型</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>男性</td><td>130</td><td>464</td><td>594</td></tr><tr><td>女性</td><td>70</td><td>336</td><td>406</td></tr><tr><td>合計</td><td>200</td><td>800</td><td>1000</td></tr></tbody></table>	(n)	1型	2型	合計	男性	130	464	594	女性	70	336	406	合計	200	800	1000
(n)	1型	2型	合計														
男性	130	464	594														
女性	70	336	406														
合計	200	800	1000														
有効回収数	1000サンプル																
調査日時	調査:2013年11月5日(火)～7日(木)																
調査実施機関	楽天リサーチ株式会社																

II. 対象者プロフィール

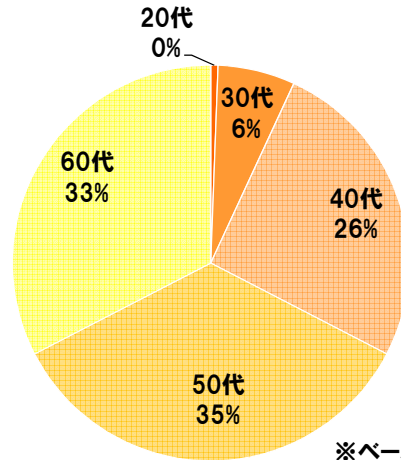
II. 対象者プロフィール

性別



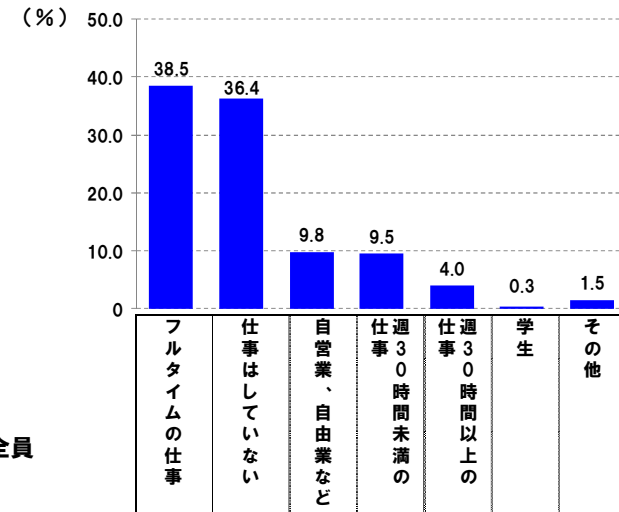
※ベース:対象者全員

年代



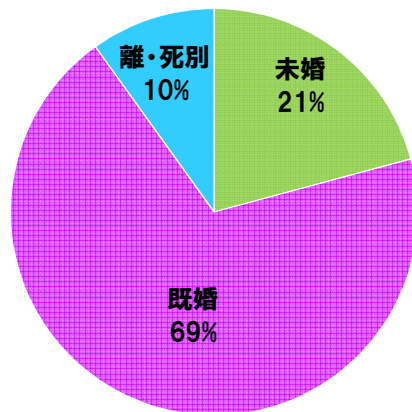
※ベース:対象者全員

職業



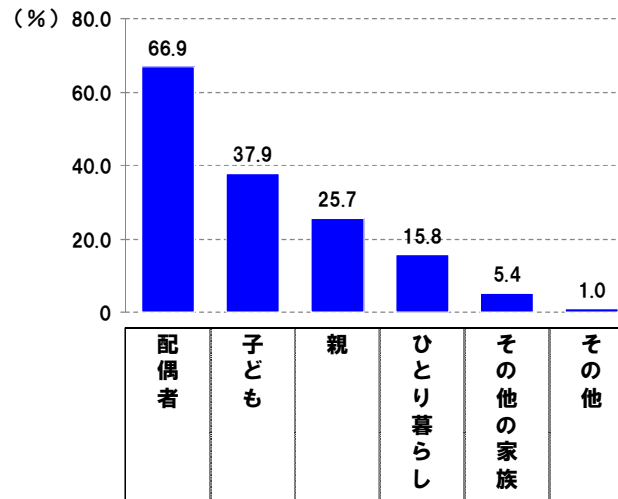
※ベース:対象者全員

未婚



※ベース:対象者全員

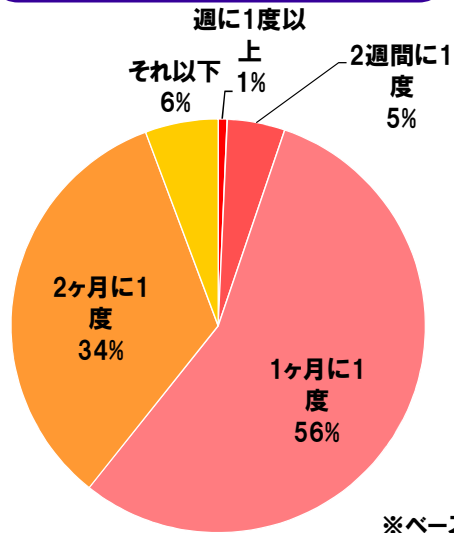
同居家族



※ベース:対象者全員

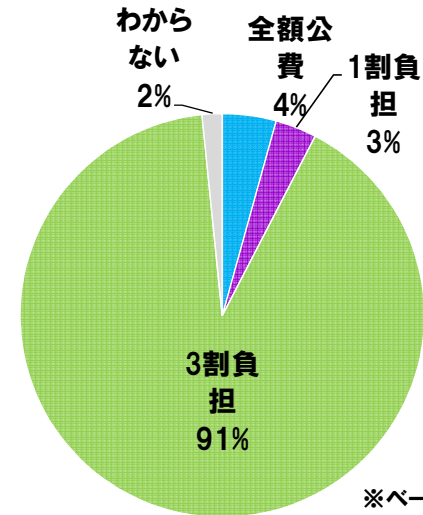
II. 対象者プロフィール

● 病院に行く頻度



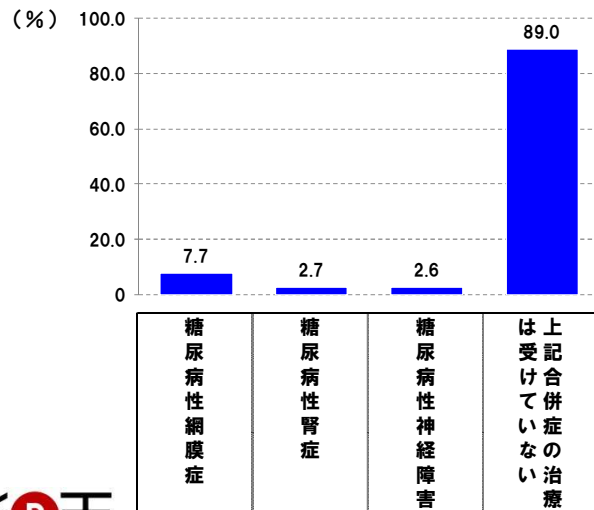
※ベース:対象者全員

● 医療費負担の区分



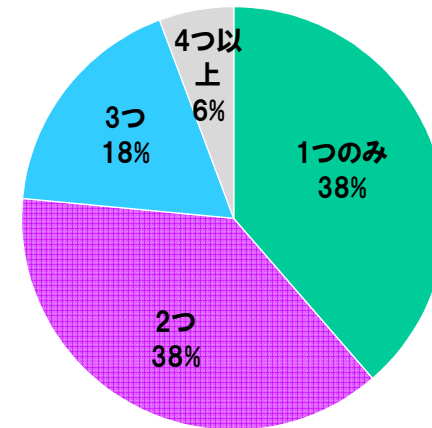
※ベース:対象者全員

● 糖尿病性合併症治療有無



※ベース:対象者全員





● 服薬くすりの数



※ベース:使用しているくすり名をご存知の人ベース

III. 調査結果の要約

※ 数表内の網掛け

-  全体値より10%以上高いもの
 -  全体値より 5%以上高いもの
 -  全体値より 5%以上低いもの
 -  全体値より10%以上低いもの
- 但しN=30未満は除く
(以降のページも同様)

III. 調査結果の要約

1

結果1

- ▶ DPP4の浸透状況:2型患者では45%で使用と回答された。
- ▶ 治療歴との関係では、DPP4単剤使用者は治療期間が短い傾向が見られた。
- ▶ くすりの満足度:回答n数50以上の薬剤でDPP4は従来薬(DPP4、GLP1、配合剤以外の経口糖尿病用薬)よりも僅かながら高い平均値を示した。

2

結果2

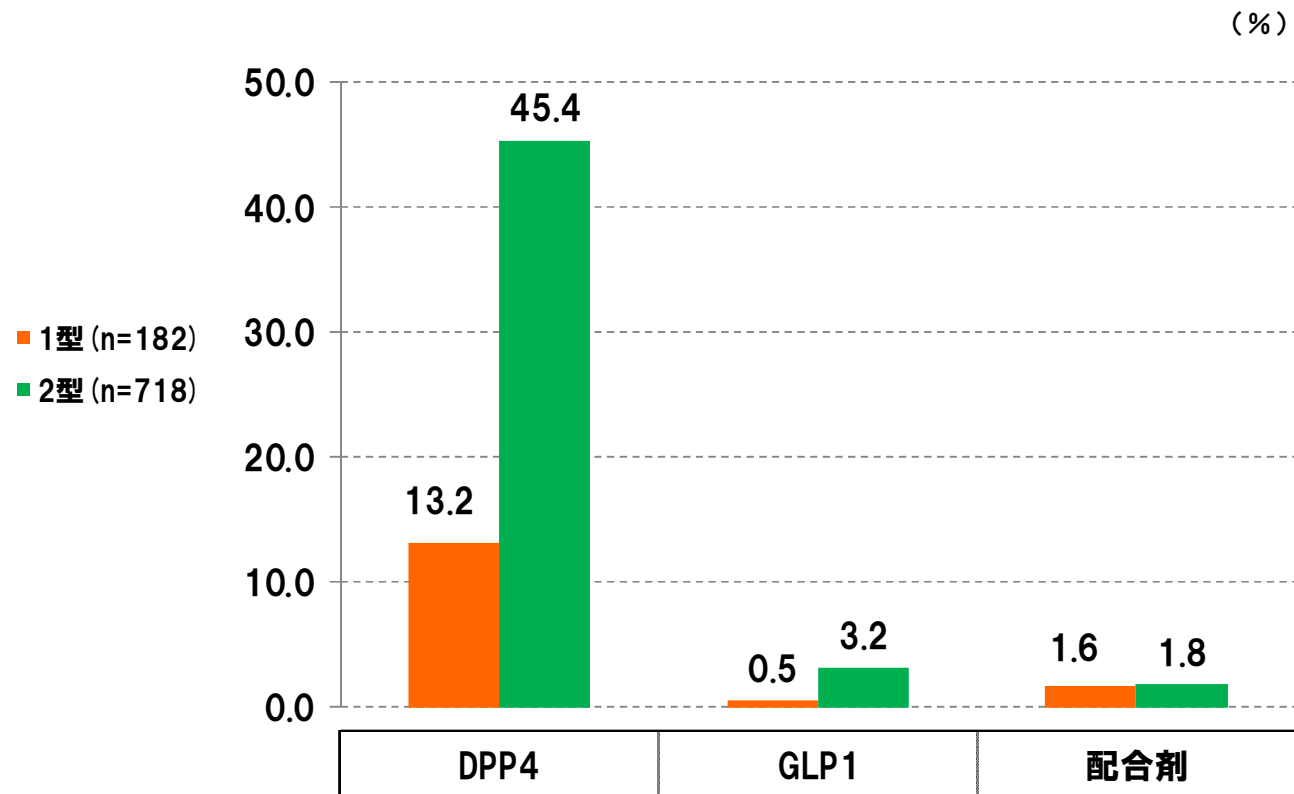
- ▶ コンプライアンスの状況を見ると、患者の46%は、次の診療の際にくすりが余っていると回答したが、DPP4使用者での傾向の違いが見られなかった。
- ▶ くすりが余る理由は、半数以上が「服薬し忘れ」と回答した一方、「予備として多めにもらっている」人が25%いた。
- ▶ 仕事、通院頻度との関係では、余る人は非就業者や通院間隔が長い人に多くみられた。
- ▶ 他疾患治療薬との関係がみえないものの、治療薬を使いきらずに余らせている患者は少なくない。慢性疾患で通院間隔が長いケースで手元に置いておくケースなども考えられ、適切に使用しないことによるコントロールへの影響が懸念される。

IV. 調査結果の詳細

1. 新規治療薬の使用状況

▶ 新規治療薬のうち、DPP4は1型患者の13.2%、2型患者の45.4%で使用されており、GLP1、配合剤に比べ市場への浸透状況が突出している。

SC2.あなたが現在使用している糖尿病の治療薬をすべてお知らせください。(いくつでも)



※ベース:使用しているくすり名をご存知の人ベース

2. 使用薬剤別に見た治療期間

- ▶ 糖尿病治療開始からの期間は、平均で4.9年。
- ▶ 薬剤別で見ると、「インスリン患者」は平均5.4年で、全体と比べて「5年以上」の治療期間の割合が高い傾向にある。
- ▶ 「非インスリン患者」では、「DPP4のみ利用」している患者は平均3.7年でもっとも短い。

Q1.あなたが糖尿病の治療を始めてからの期間をお知らせください。(SA)

	(n)	平均値 ⇒ 0.5 1.5 2.5 4.0 6.0 (%)							平均期間 (年)
		1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	わからない		
全体	1000	1.9	7.5	9	15.1	66.3		4.9	
インスリン患者	280	3.9	5.4	9.6		80.4		5.4	
非インスリン患者	620	2.6	9.8	9.8	17.6	60.0		4.7	
従来型のみ利用	288	3.1	8.3	8.3	19.1	61.1		4.8	
DPP4と従来型の併用	197	5.1	5.6	16.2		72.1		5.2	
DPP4のみ利用	98	4.1	23.5	20.4	15.3	36.7		3.7	
その他	37	5.4	10.8	16.2	18.9	48.6		4.3	

※ベース:全員

※1%以下の数字は非表示

※従来型:DPP4、GLP1、配合剤以外の経口糖尿病用薬

※平均期間は「わからない」と回答した人を除いて、算出した

3. くすりに対しての満足度＜薬剤別＞

- ▶ くすりあたりの、服用している患者の数と満足度が以下の表でみられる。n数が50以上の薬剤でみると、DPP4の平均満足度がやや高い。
※併用薬による影響は考慮していない。

Q7.あなたが現在服薬している下記のくすりごとの満足度をお知らせください。(SA)

	くすり名	使用者の数	満足度加重平均
(注射) インスリン	持効型インスリン(トレシーバ、レベミル、ランタス)	179	3.66
	超速効型インスリン(ノボラピッド、ヒューマログ、アビドラ)	155	3.87
	混合型インスリン(ヒューマログミックス25、ヒューマログミックス50、ヒューマリン3/7、ノボラピッド30ミックス、ノボラピッド50ミックス、ノボラピッド70ミックス、ノボリン30R、イノレット)	48	3.56
	速効型インスリン(ノボリン、ヒューマリン)	25	3.24
	中間型インスリン(ヒューマログN、ボノリンN、ヒューマリンN)	15	3.27
	インスリンポンプ	8	4.13

	くすり名	使用者の数	満足度加重平均
(錠剤) 従来型	グリメピリド(アマリールなど)	228	3.43
	メトホルミン(グリコラン、メディットなど)	227	3.48
	ボグリボース(ベイスンなど)	134	3.46
	ビオグリタゾン(アクトスなど)	110	3.47
	グリベンクラミド(オイグルコン、ダオニールなど)	46	3.43
	ミチグリニド(グルファスト)	35	3.71
	アカルボース(グルコバイなど)	32	3.28
	セイブル	31	3.65
	グリクラジド(グリミクロンなど)	23	3.70
	ナテグリニド(スターシス/ファスティックなど)	15	3.33
	ブホルミン(ジベトスなど)	9	3.89
	レバグリニド(シュアポスト)	4	3.75

	くすり名	使用者の数	満足度加重平均
(錠剤) DPP4	シタグリブチン(ジャヌビア、グラクティブ)	239	3.62
	ビルダグリブチン(ネシーナ)	62	3.63
	リナウリブチン(トラゼンタ)	22	3.27
	エクア	19	3.63
	テネリグリブチン(テネリア)	7	3.29
	アナグリブチン(スイニー)	1	3.00
	サキサグリブチン(オングリザ)	1	4.00

※【利用者数で並び替え】

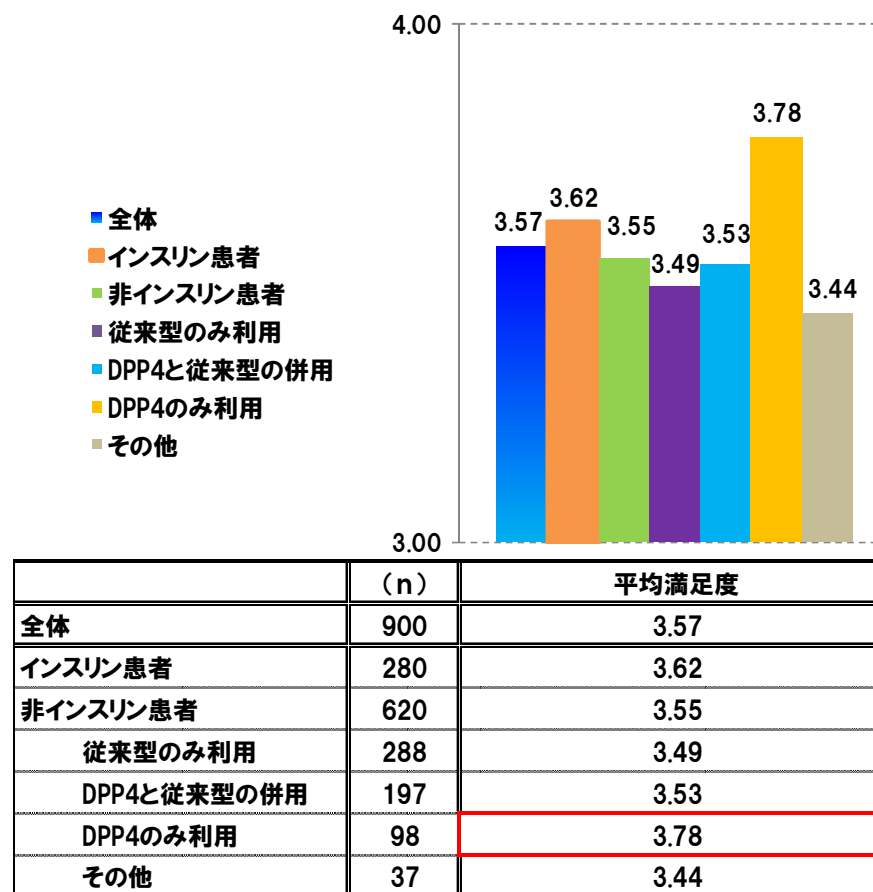
※くすり別の5段階評価で「満足」5点、「不満」1点とし、その回答の平均値を表した。

※従来型：DPP4、GLP1、配合剤以外の経口糖尿病用薬

4. くすりに対しての満足度＜使用薬剤の組合せ別＞

- ▶ 現在の糖尿病治療くすりに対する満足度は、5点満点で3.57点である。
- ▶ 服用くすり別の満足度は「DPP4のみ利用」は全体を0.21ポイント上回った。

Q7.あなたが現在服薬している下記のくすりごとの満足度をお知らせください。(SA)



	(n)	平均満足度
全体	900	3.57
インスリン患者	280	3.62
非インスリン患者	620	3.55
従来型のみ利用	288	3.49
DPP4と従来型の併用	197	3.53
DPP4のみ利用	98	3.78
その他	37	3.44

※ベース: 使用しているくすり名をご存知の人ベース

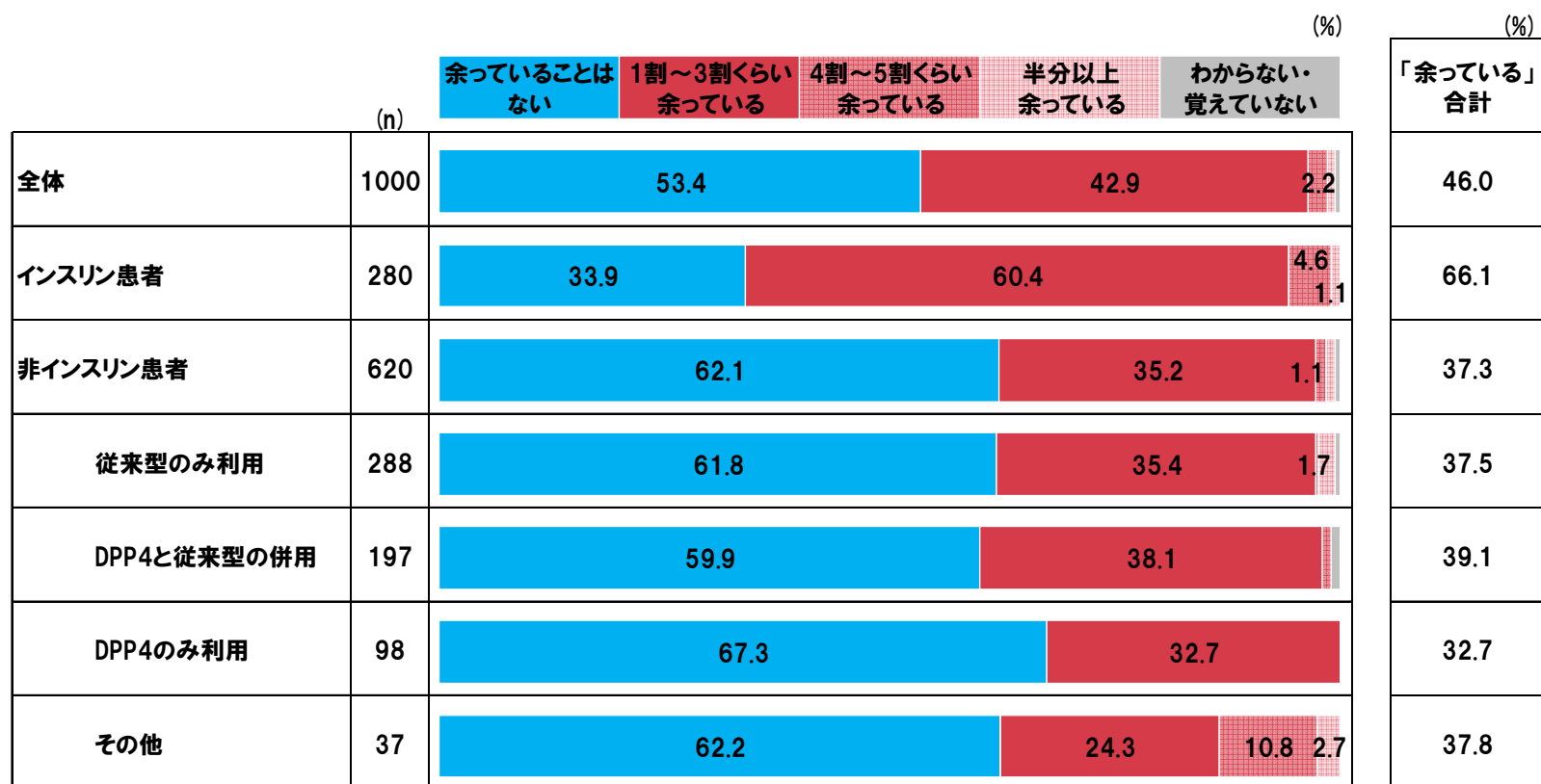
※くすり別の5段階評価で「満足」5点、「不満」1点とし、その回答の平均値を表した。

※従来型: DPP4、GLP1、配合剤以外の経口糖尿病用薬

5. くすりが余る割合

- ▶ 処方されたくすりが、次の通院までに余っているケースは全体で半数近い46%である。
- ▶ 新規治療薬であるDPP4と、インスリン以外の他の薬剤ではくすりが余っている状況に差はみられない。

Q8.あなたが、糖尿病の治療のために病院にもらったくすりは、次の通院時にどれくらい余っていることが多いですか。(SA)



※ベース: 全員

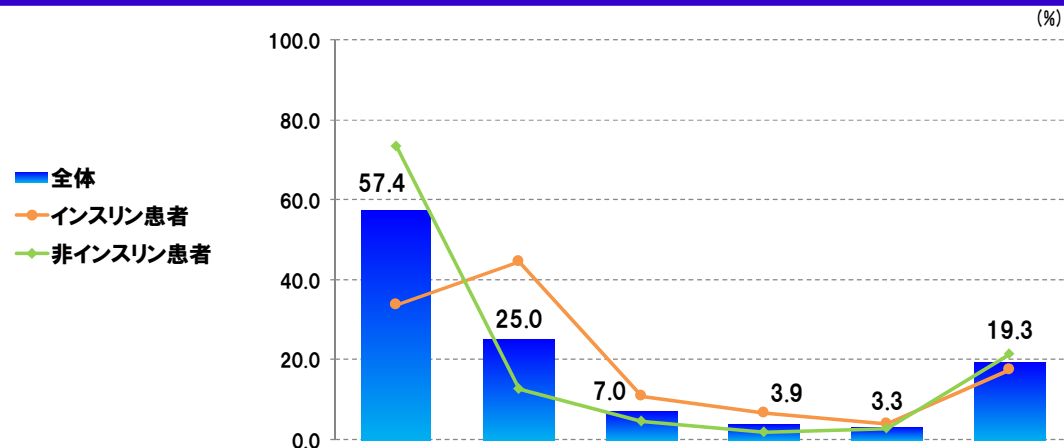
※1%以下の数字は非表示

※従来型: DPP4、GLP1、配合剤以外の経口糖尿病用薬

6. くすりが余る理由

- ▶ 処方されたくすりが余る理由として「インスリン患者」は「予備として多めにもらっている」(44%)回答が多く、「非インスリン患者」だと「服薬し忘れることがある」(73%)で、くすりが余る理由に違いがみられる。

Q9. 糖尿病の治療のために病院にもらったくすり、次の通院時に余る理由をすべてお知らせください。(MA)



	(n)	服薬し忘れることがある	予備として多めにもらっている	体調が優れず服薬できない	服薬しづらいため服薬しないときがある	くすりの副作用が心配	その他
全体	460	57.4	25.0	7.0	3.9	3.3	19.3
インスリン患者	185	33.5	44.3	10.8	6.5	3.8	17.3
非インスリン患者	231	73.2	12.6	4.3	1.7	2.6	21.2
従来型のみ利用	108	72.2	13.9	4.6	0.9	2.8	23.1
DPP4と従来型の併用	77	77.9	10.4	2.6	2.6	2.6	18.2
DPP4のみ利用	32	68.8	6.3	6.3	3.1	0.0	25.0

7. くすりが余る患者のプロフィール比較<職業>

▶ くすりが余る人と余らない人の違いを職業でみると、「くすりが余る人」の方が有職者の割合が高い。

Q15.あなたご自身の職業を以下の中からお選びください。(SA)

<職業別の状況>

		(%)				
	(n)	フルタイムの仕事	契約社員やパート タイムの仕事	自営業、 自由業など	仕事はしていない	その他
全員	1000	38.5	13.5	9.8	36.4	1.8
くすりが余る人	460	41.3	16.7	10.7	28.9	2.4
くすりが余らない人	534	36.5	10.9	9.2	42.3	1.1

※ベース:全員

8. くすりが余る患者のプロフィール比較<通院頻度>

▶ くすりが余る人と余らない人の通院頻度を比較すると、「余る人」の方が「2ヶ月に1度」の通院頻度の患者が多い。

Q2.現在、あなたは糖尿病の治療のために、どれくらいの頻度で通院していますか。(SA)

<通院頻度別の状況>

		(%)				
	(n)	週に1度以上	2週間に1度	1ヶ月に1度	2ヶ月に1度	それ以下の頻度
全員	1000	4.5	55.5		33.6	5.7
くすりが余る人	460	3.7	50.0		39.3	6.1
くすりが余らない人	534	5.2	60.1		28.7	5.4

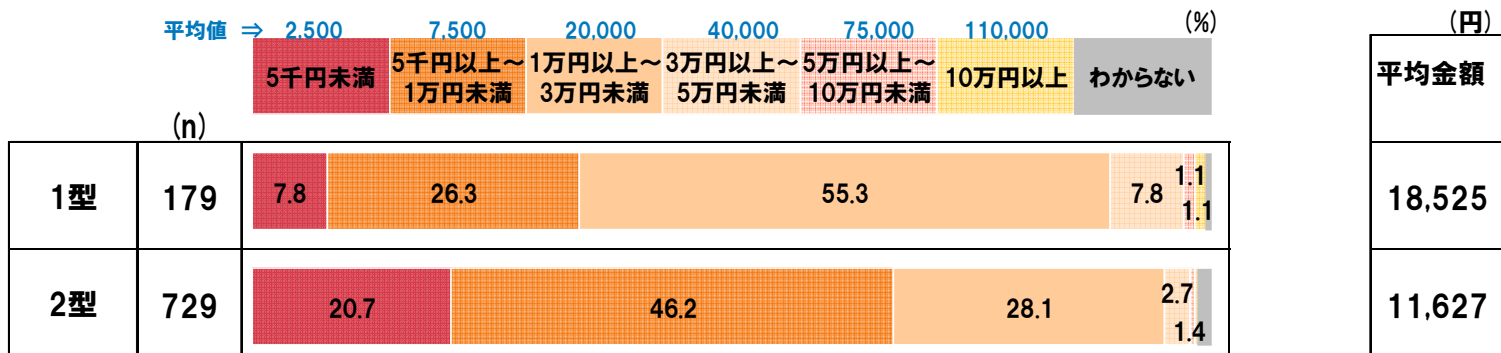
※ベース:全員

9. 糖尿病タイプ別の医療費比較

▶ 1ヶ月あたりの医療費および糖尿病治療費ともに、1型糖尿病患者の方が治療費が高い。

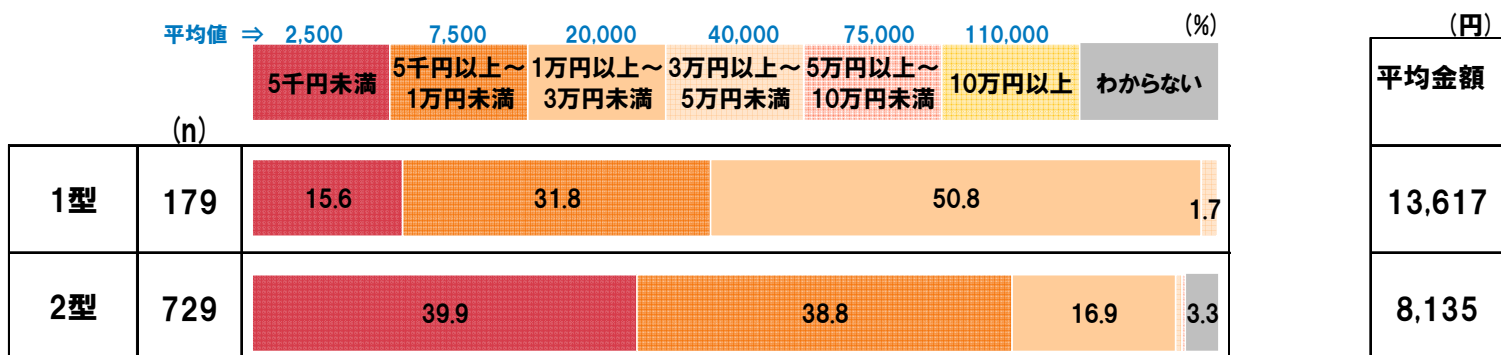
Q12.あなたが1ヶ月に支払う医療費（自己負担分）の合計をお知らせください。
また、その中で糖尿病のために支払う医療費（自己負担分）をお知らせください。（SA）

1ヵ月あたり平均医療費負担額



※ベース:医療費負担は3割負担に絞って表示

1ヵ月あたり平均糖尿病治療費負担額



※ベース:医療費負担は3割負担に絞って表示

※1%以下の数字は非表示

※平均金額は「わからない」と回答した人を除いて、算出した